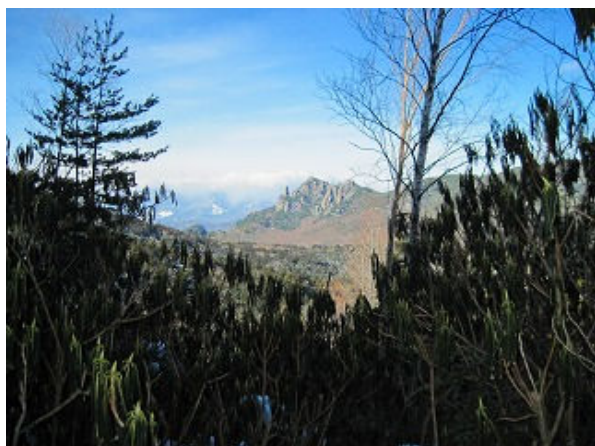


## 会山行報告書

通算山行NO	NO. 97 B	報告者	石和加代子
年月日	2011年1月9日(日)～10日(月)	2万5千	金峰山
山名	奥秩父・金峰山(2599m)		
体力度=3・普通	技術度=3・普通	道標=ある	駐車場=ある
展望度=よい	三角点名=金峰	等級=三等	トイレ=小屋
<b>静寂の雪山と対面</b>			
コース とタイム	1日目=下土狩発6:00—双葉SA—廻目平発9:30—西股沢—金峰山小屋着 12:45—金峰山頂上着13:35—金峰山小屋着14:00 2日目=金峰山小屋発6:10—金峰山御来光6:55—金峰山小屋7:20～8: 30—廻目平着10:10—たかねの湯—下土狩着16:00		
標高差	廻目平約1500m～金峰山2599m=約1099m		
参加者	CL後藤隆徳・村山忠彦・村上美恵子・西原京子・石和加代子		

今シーズン初の雪山行が初体験の冬の山小屋泊まりとなりドキドキ。持ち物や装備の準備に手間取る。

金峰山は奥秩父連峰に位置し、山梨県では「きんぷさん」、長野県では「きんぼうさん」と呼ぶそうだが、私たちは長野県側川上村の廻目平から山頂を目指した。増富温泉からのルートもあるが、距離が長いしトレースがなかったらとても大変なことになるだろう。車中からは右斜め上空に岩の砦のような山が見えた。小川山という平凡な名前とは似つかわしくない山容だ。林道はもうすっかり雪道になっている。ゲート手前には車が1台止まっていた。西股沢に沿って林道を歩いていくこと長し。やがて、中ノ沢と砂洗川の出合で林道終点となる。丸木橋は雪がたっぷりのっていたので、渡るに心配はなかった。ここから尾根コースで登っていく。シラビソのいろいろな種類がある。樹林帯の坂道でアイゼン装着。「最終水場」の標識をすぎ、「中間点」の標識あたりでは、道が回り込んで林が開けていて展望ポイント。瑞牆山の岩峰、八ヶ岳が見える。「もうこんなとこまで来た!」と美恵子さん。「この分じゃ早く着きすぎちゃうなあ」というのは地図でしっかり確認しながら歩いている村山さん。トレースはあるし、積っている雪の具合もちょうどよく歩きやすい。



危険なところはない。それでも樹林帯が続くので単調になって飽きてきた。割った薪が積まれていたのを見て、後藤CLから「小屋は近いぞ」と声がかかる。しかし、なかなか樹林帯は終わらない。おかしいなあとがっかりしているうちに突然屋根らしきものが現れた。フー。5人足が揃って金峯山小屋に到着。無雪期のコースタイムと変わらない、約3時間。

やはり小屋に入るには早すぎる。明日は寒波予報でもあるので、続いて金峰山登頂に変更する。防寒風に備え、ヤッケ・目出帽・ゴーグル・手袋3枚重ねをさらに加えて、いらぬ荷物は自炊場の小屋に置き軽いザックで出発。



八ヶ岳・瑞牆山をバックに9日のアタック

モーレツな風の中上る



9日の頂上

モーレツな地吹雪の中下る



小屋の脇を進むと、樹林帯から抜けだしているのので展望が素晴らしい。瑞牆山が目の前。すぐ後ろに八ヶ岳が広がる。さあここからは急斜面、風をさえぎってくれるものはなにも



ない。道しるべの棒を立ててくれてあるが、強風でなびいている。

山頂へのトレースはよくわからない。後藤C Lの後を追う。やがて、右手に五丈岩が、その手前に赤い鳥居が見えた。左に向かうと、山名案内の石板、そして金峰山頂 午後1時35分に到着。瑞牆山（2230m）が低く見える。冷えるほど空気が澄んで、八ヶ岳連峰、南アルプス、富士山などがよく見える。寒いので長居はできない。

さっさと下り、金峯山小屋へ入ったのは午後2時。廻目平出発から4時間半経っていた。ちょっと寒い小屋の中でゆっくりすごす。5時半の夕飯には赤ワイン1本を出してくれた。みんなは元気だが、私はまたしても調子が悪い。寝る頃には2階にも暖気が上がってきた。宿泊客はたったの10人で、ゆったりと眠ることができた。



小屋で新年会



←庄野さん

夕食風景

翌日早朝、「さあ、（希望者は）行くぞ」の後藤C Lの声（天候しだいと昨夜のはなし）に私は起き上がってしまった。夜中、雪が降ってるからダメだなあという後藤C Lの声に、これ幸い、私は頭痛がするからや〜めたと思っていたのに条件反射してスイッチが入ってしまったのだ。急いで支度をして、ヘッドランプをつけ、薄暗い中4人（昨夜知りあった青年が加わり）で小屋を出発。昨日より寒く、風も強い。日の出に間に合わないかと思うくらい、けっこう明るくなる。しかし十分大丈夫で、山頂でご来光を拝むことができた。

ゆで卵が上にブワ〜ンと引っ張られるようにオレンジ色が伸び、そしてまぶしい丸いおひさまになった。右遠方には富士山が裾野を広げている。山頂の標識は雪をかぶっている。風で塵がすっかり吹きはらわれたのか、八ヶ岳は昨日よりさらに美しく連なっていた。360度の展望に満足。



10日のご来光



頂上でボンダラゲ〜



荒天の山で  
いい経験だった

小屋にもどり、待っていてくれた仲間と朝食（思いのほか温かいおじやはスルッとお腹に入ってくれた）。8時半小屋出発。外の気温は−18度（へー！驚き）。下山は往路に戻る。踏まれていない新雪はサラサラで歩きやすい。川には雪もあり水のきれいなことこのうえなし。静寂の中、下りは速かった。1時間40分。

車がありました。たった1台ポツンと雪をかぶって。川上村の千曲川は一部凍っていたり、学校の校庭はスケート場が変わっていた。そのうち車の走りが悪いのは、燃料が凍ったからだと判明。温泉（たかねの湯・北杜市民以外700円）に入っている間、車を駐車場の日なたに置いて、無事に長泉に帰ってきました。

雪山行は実地体験を重ねて学ぶことが多い。天候にも恵まれ、楽勝の雪山行だったとみなさん思われたことでしょう。私もそうだったはずなのに…持病の膝が痛んできました。





黎明の八ヶ岳



小屋の朝食



雪だらけの車



いい山で  
満足でした

